

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（口腔健康科学）	氏名	市川 知美
学位授与の条件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 Association of periodontitis with intakes of vitamins, minerals and dietary fiber in non-smoking Japanese adults: a cross-sectional study （日本人の非喫煙者におけるビタミン、ミネラル、食物繊維の摂取と歯周炎の関連：横断研究）			
論文審査担当者			
主査 教授 村山 長 印			
審査委員 教授 内藤 真理子			
審査委員 教授 太田 耕司			
<p>〔論文審査の結果の要旨〕</p> <p>歯周病は、脳卒中や糖尿病、心血管疾患のリスク増加と関連することが知られている。また、これらの危険因子となる肥満も歯周病と関連し、近年の研究では抗酸化作用をもつビタミンC、βカロテン、ビタミンEやω3脂肪酸などが歯周炎を軽減させる可能性も報告されている。しかし、食事内容は残歯数や多くの要因に左右されやすく、検討が必要とされている。さらに昨今、臨床現場で導入が進められている歯周ポケット炎症面積（Periodontal Inflamed Surface Area：PISA）やポケット上皮面積（Periodontal epithelial surface area：PESA）と食事の関連性についてはまだ報告が少ない。そこで本研究は、残歯数が20本以上かつ、糖尿病や喫煙歴の無い日本人を対象として、習慣的な食事摂取量から推定したビタミン、ミネラル、食物繊維などの各種栄養素摂取量とプロービング時の出血（BOP）やPISA、PESAとの関連について明らかにすることを目的とした。</p> <p>対象者は広島県内の歯科医院の患者とし、103名が研究に参加した。口腔内の検査は、歯科医または歯科衛生士がBOP、プロービングポケット深さ（PPD）、プラークコントロールレコード（PCR）、残歯数を評価した。PISAおよびPESAの算出は、日本歯周病学会が公開しているPISAおよびPESA算出用のExcelシートを用いて行った。習慣的な栄養素摂取量は、簡易型自記式食事歴質問票（BDHQ）を用いて推定した。研究に同意した参加者103名の内、歯数が20本未満、糖尿病、喫煙者（過去喫煙者と現喫煙者を含む）、同意の撤回、歯周病の評価または質問票のデータの欠落があった者42名を除外し、22～90歳の61名のデータを解析した。測定部位におけるBOPの割合、PISA、PESAに対する栄養素摂取量の関連性の検討は相関分析により行った。</p> <p>その結果、BOPとビタミンC、葉酸、マンガン、食物繊維において負の相関がみられた。PISAにおいては、食物繊維、カルシウム、マグネシウム、亜鉛、マンガンなどのミネラルの他、レチノール、ビタミンD、ビタミンK、ビタミンB12、ビタミンCなどのビタミンと負の相関がみられた。PESAでもレチノールと負の相関がみられた。</p> <p>以上の結果から、本論文は食事中のビタミン、ミネラル、食物繊維の摂取量は、歯周炎と関連することを明らかにし、歯周病予防や治療における食事管理の重要性を示した。</p> <p>よって審査委員会委員全員は、本論文が市川 知美に博士（口腔健康科学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			